

「いてくれてありがとう」の言葉を大切に！
あふれる笑顔にはとても深いメッセージを感じます



黒糖の「味のアナログ画」の鑑賞会

◆5名の臨床美術士が活躍

医療法人社団 博愛会（理事長 細川吉博）は、北海道十勝で医療・介護・福祉事業を運営しており「臨床美術」の活動は平成27年から行っています。法人内に臨床美術士の資格をもつ高橋直美、奈良則子、森さなみ、大石祐子の4名に加えグループ内の社会福祉法人 博愛会にも1名、荻原悦子がおり、5名で介護老人保健施設の他、地域の町内会サロン、介護予防教室、障がい者施設等で活動しております。

臨床美術との出会いは「ニュースキャスターのお母様が認知症で、臨床美術を通して生きる意欲や活力を取り戻したという記事」を読んだことがきっかけです。介護職以外の私たち事務職でも何らかの形で利用者さんに関われないかと考え、芸術造形研究所の開催する無料ワークショップに参加。「臨床美術」の深い魅力を実感し臨床美術士になる決心をしました。理事長を筆

頭に臨床美術の理解を深め、法人をあげての取り組みとして活動しております。

◆夢中になって作品作り

開催場所により参加者はさまざまですが、セッション開始前は皆さん共通して不安げな表情をされております。



「コムニの里 みどりヶ丘」でのりんごセッション

まずは、緊張をほぐすため、体操などでからだをリラックスさせます。季節の歌やセッションに関する歌をセレクトし、曲についての思い出話を交え、コミュニケーションを十分にとりながら導入に入っていきます。

導入では五感を意識し、題材について触れ、皆さん思い思いに感じていただくのですが、いざ制作に入ろうとすると、「できない」「描けない」など構えてしまいます。

しかし臨床美術士が段階的に誘導し、描く側は感じたままを表現することで、気がつけば作品が完成しており、「時間が経つのを忘れて夢中になっちゃった」「楽しかった」と参加者は自分の作品にどこか誇らしげで素敵な笑顔があふれます。

セッションのクライマックスである鑑賞会では、臨床美術士が感想を伝えるのですが、思いが溢れ出て、ご自身で発表される方も出てくるぐらいです。

いつもは15分毎にコールを鳴らす利用者も、セッション中は夢中になっての作品作りで90分間集中されており、施設のスタッフが驚くこともありました。また、ご家族の方が「これ、母が描いたのですか?」「普段何もやろうとしないのに!」と大変驚き、喜んで下さいます。



玉ねぎセッションに取り組む

◎医療法人社団 博愛会

〒080-2473

北海道帯広市西 23 条南 2 丁目 16 番地 27

TEL.0155-38-7204

<http://www.hakuaikai.org>

- ・開西病院
- ・介護老人保健施設「あかしや」
- ・介護老人保健施設「ヴィラかいせい」
- ・看護小規模多機能型居宅介護「あんさんぶる開西」
- ・小規模多機能型居宅介護「あんさんぶる川北」
- ・グループホーム「かたらい」
- ・リハビリデイ・リサ「おびひろ西」「さっぽろ元町」

◎社会福祉法人 博愛会

・地域密着型介護老人福祉施設コムニの里

「さらべつ」「おびひろ」「まくべつ」「みどりヶ丘」

・サービス付き高齢者向け住宅

「コムニの里 みどりヶ丘」



介護老人保健施設「あかしや」での作品展

❖ いてくれてありがとう

五感は、認知症になっても心の中に鋭く残っていることを実感しています。今後はケアする介護職と連携をとりながら潜在機能を引き出し、自信の回復につながるセッションが出来ればと考えております。私たち博愛会の臨床美術士は単に絵を描くということだけではなく、存在論的人間観である「いてくれてありがとう」の言葉を大切に心が元気になるセッションを心がけ、これからも沢山の笑顔と出会うための臨床美術の活動を進めて参りたいと思います。

【医療法人社団 博愛会／臨床美術士 大石祐子】

臨床美術（クリニカルアート）とは

独自のアートプログラムに沿った創作活動を通して、認知症の症状改善を目的として開発されました。臨床美術士が一人ひとりの参加者にそった働きかけをすることで、その人の意欲と潜在能力を引き出していきます。1996年に医者（医療）・美術家（美術）・ファミリーケア・アドバイザー（福祉）がチームとなって実践研究をスタートさせました。

医療・美術・福祉の壁を超えたアプローチが特徴で、アートセラピーの先進国にも例を見ない先駆的な取り組みと言えます。認知症の症状改善を目的として始まりましたが、現在では前認知症の人や一般高齢者の認知症予防としても実施されています。また、発達障がいの子どもへのアプローチや子どもたちの感性を育む教育、福祉教育の分野でも高い評価を得ています。

近年は、臨床美術によって年齢や障がいを越えた深いコミュニケーションが実現することに着目した団体や学校が介護実務者や保育者、教育者の養成や研修に導入しています。

◆特定非営利活動法人 日本臨床美術協会

<http://www.arttherapy.gr.jp/>

表紙掲載作品 「きゅうりの量感画」川原正雄さん